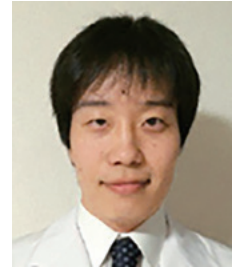


◎ 2018年度同門会 若手医師奨励賞受賞



滋賀医科大学医学部附属病院 呼吸器外科

白鳥 琢也 (平成 23 年卒)

滋賀医科大学外科同門会の皆様に於かれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。今回若手外科医賞という過分な賞をいただいたことは、鈴木先生、花岡先生をはじめとした大学の諸先生方、ならびに関連病院の先生方より日々ご指導頂きました結果であり、この場を借りてお礼を申したく僭越ながら拙筆を取らせていただきました。

奨励賞でご評価頂いたのは、“胸腺原発類基底細胞癌と診断した一例”の論文執筆となります。

呼吸器外科では、原発性肺癌や転移性肺腫瘍などの肺疾患だけではなく、縦隔腫瘍が診療対象として含まれています。しかし、肺腫瘍と比較すると症例数は限られており、特に胸腺癌は胸腺腫瘍の中でも我々若手医師が接する機会は比較的低い症例となっております。今回投稿した症例は、手術時には胸腺腫と胸腺癌での診断が病理学的にも困難であり、繰り返しの病理部の先生方との討議の結果診断に至った経緯があります。その過程で、胸腺腫瘍の診断を困難さや疫学的な問題、治療経過への影響など様々な面での勉強をすることができ、今後の診療への経験を得ることができました。

希少な症例に於いて、実際に若手医師が臨床現場で出会い経験として積んでいく場面は非常に少ないと思われます。今回このような貴重な機会を得たことで、過去に先生方が積み重ねてこられた様々な経験を参考にさせていただいたこと、実際に論文を執筆し医療の進歩への一助となることの大切さを感じました。今後も日常臨床のみならず、執筆活動を通じて医療に貢献していくことができたらと思います。

最後にはなりませんが、このような研究発表を行うことができることは、日々ご指導頂く先生方と共に働く同僚の先生方あってのことだと改めて感謝致します。書中をもって御礼申し上げます。